

平成22年 5月31日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19520701

研究課題名（和文） 中国地域における草屋根葺きの技術文化研究

研究課題名（英文） Technical culture study of grass roofing in Chugoku district

研究代表者

坪郷 英彦 (TSUBOGO HIDEHIKO)

山口大学・人文学部・教授

研究者番号：70207439

研究成果の概要（和文）：中国 5 県で活躍する草葺き屋根職人の所在調査と、地域ごとの屋根型、技術、道具の違いを調査した。その結果、環境と人の暮らしの立場から山地と平野部の屋根の屋根勾配の違い、千木の有無の違いを明らかにした。近代産業と在来技術の関わり視点から芸州流と呼ばれる広島県の職人、出雲の職人について、技術の特徴と職人像を明らかにした。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this research is the investigation of thatched roof workmen active in 5 prefecture of the Chugoku area and the investigation of the difference among the roof type ,technologies, and tools in each region. The result consist of two aspects. I clarified the difference of the roof inclination between the mountainous district and the plains ,the aspect of the environment and person's living, and the presence of Chigi, roof top ornament. And from the aspect of the relation of the modern industry and the indigenous technology, I clarified the feature of the technology and the workman image for the workman in Geishu ,Hiroshima Prefecture, and in Izumo, Shimane Prefecture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	600,000	180,000	780,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民族学

キーワード：(1)草葺き屋根、(2)職人、(3)茅、(4)在来技術、(5)屋根勾配、(6)相互扶助

1. 研究開始当初の背景

草葺き屋根は農山村の文化的景観を構成する重要な要素である。その建築学的及び地理学的な研究は進んでいるが、各地域の特徴や職人像の考察、村の相互扶助としての屋根葺

きの具体的仕組みといった民俗学的な研究は東北地域の研究を除いて十分なされていない。これまで山口県内の草葺き屋根職人について調査を実施し、「草葺き屋根」（山口県未指定文化財調査報告）としてまとめた。その過程

で広島県からの職人の出張が多かったことが明らかになった。一方、日本海側では村の職人による相互扶助的な形式での屋根葺き慣行が行われていた。

2. 研究の目的

これまでの草屋根研究は建築学分野での技術研究が主として行われ、民俗学的な研究はあまり進んでいない。白川郷合掌作り民家集落の世界遺産登録といった例から文化的景観への意識が高まり、草屋根への技術的関心とともに屋根を維持してきた村の相互扶助など文化的側面への関心も高まりつつある。本研究は民俗学的視点に立ち、中国地域5県の草葺き屋根職人の所在を明らかにすること、地域ごとの屋根の形及び技術の特徴を明らかにすること、芸州流と呼ばれた広島県の職人の仕事の様子を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

中国5県の県市町村教育委員会に対して職人の所在アンケート調査を行った。所在の確認された職人に対して聞き取り調査を実施、その中で屋根葺き技術の記録、使用道具の記録を並行して行った。

職人の所在調査を島根・鳥取・岡山の各県市町村教育委員会に対して行った。山口県・広島県はこれまでの独自の調査データを用いた。県市町村71カ所に対して所在確認のアンケートを実施し、48の回答があった。その集計の結果、岡山県4、鳥取県2、広島県4、島根県5、山口県7の職人の所在を知ることが出来た(表1)。これをもとに、情報公開の確認を各教育委員会を通して行い、実際の聞き取り調査に入った。

平成19年度は広島県・島根県域を主たる調査地域とし、平成20年度は岡山県・鳥取県を主として調査を行った。平成21年度は全体のまとめと補足調査を行った。

表1 職人の所在地域

	件数	地域
岡山県	4	井原市・美作市・津山市・玉野市
鳥取県	2	八頭町・若桜町
広島県	4	東広島市・熊野町・北広島町・庄原市
島根県	5	松江市・斐川町・出雲市・邑南町・浜田市
山口県	7	山口市・山陽小野田市・萩市・宇部市

4. 研究成果

(1)岡山・鳥取地域の草葺き屋根職人の分布から、中国地域を南北に縦断する地域比較を行った。草葺き屋根が自然環境の影響を反映したものであることを具体的な職人へのアンケートと聞き取りによって明らかにした。中国山地沿いの地域に住む人たちは冬季の積雪や台風時期の風に対処するために屋根勾配をきつくしたり、屋根の棟に重しとして千木を置く工夫をしていた。表2に岡山・鳥取地域の環境と草屋根の諸要素の相関を示した。地形区分は鳥取県海岸部・中国山地・岡山県盆地高原地帯・岡山県海岸部に分けられる。鳥取県海岸部は未調査であるが、山地から海岸部まで20kmほどであり、中国山地の特徴と同じと考えられる。棟仕上げは中国山地は千木と針目覆い(タバサ)と丸瓦(ガンブリ)、岡山県海岸部は丸瓦(ガンブリ)である。千木は棟を上から押さえる風対策である。棟巻きは葺き上げる材料で行うのが一般的であり、中国山地では入手しやすい杉皮で巻く方法もとられた。屋根勾配は中国山地で急であり、岡山県海岸部に行くにつれて緩やかになる。屋根勾配の違いは積雪への対応であり、津山盆地以北で屋根勾配をきつくとする。屋根葺きの材料は中国山地では茅、岡山県盆地高原地帯で麦藁、岡山県海岸部で麦藁、葎、笹が使用される。自然の植生と生業の中から入手しやすい材料を選択して来たことを示している。中国山地では茅の材料は入会の茅場から調達され、岡山県の盆地・高原地帯では茅場の減少で自給の麦藁を使用するようになった。岡山県海岸部も同じように自給の麦藁を主として使うが、他に葎、笹を調達することができた。葎葺きは上層の家で使う材料であり、ステータスを構成する要素の一つであった。

屋根を葺く材料は身近に手に入るものを使った。茅、稲藁、麦藁、笹、葎の材料はそれぞれの地域ごとに選択されていた。

山沿いでは茅が手に入りやすかった。その供給源は入会の茅場であった。結果的に岡山、鳥取の中国山地沿いに草葺き屋根がよく残されていることも、職人の存在と共に茅場の存続と密接に関わっている。

表2 岡山・鳥取地域の環境と草屋根諸元の相関

	棟仕上げ	棟巻き	屋根勾配	材料	材料の入手先	手伝い
鳥取県海岸部	—	—	—	—	—	—

中国山地	千木・針目覆い	杉皮葺き・茅葺き	急	茅	茅場	手間替え・総事
岡山県盆地高原地帯	丸瓦・針目覆い	麦藁葺き・稲藁葺き	中	麦藁	自給(田)	手間替え
岡山県海岸部	丸瓦	一	緩	麦藁・芦・笹	自給・河口	一

(2) 広島・島根地域の草葺き屋根の技術の特徴を明らかにした。広島県西部を中心とした芸州流屋根職人の技術、出稼ぎからなる具体的人間像を明らかにした。明治期から農閑余業として近畿地方から北部九州まで広域に渡って仕事をしていた。岡山県での調査では、安芸の屋根屋の話しを多く聞くことが出来、また、地元との技術の違いも明らかにすることができた。

島根県では数少ない職人から、邑智郡、出雲地域の屋根葺き技術について聞くことが出来た。特に出雲地域の反り返った旨仕上げの方法について詳細に調査することが出来た。

(3) 山口県域の屋根職人について、1995年にまとめられた「草葺き屋根」(山口県未指定文化財調査報告)を元に、追加調査も行い、瀬戸内側の広島職人の影響と、日本海側の村の職人的活動を明らかにした。調査時に見いだされた太子講文書の分析から職人の組織的集合と分散の実態を明らかにした。

(4) 草葺き屋根の材料の一つである、茅を供給してきた茅場について分析を行った。岡山県・鳥取県の中国山地地域では茅場は個人持ちの場合もあるが、多くは村の入会としてあり、村人の生命線に関わる重要な場であった。その慣行を岡山県東粟倉尊後山地区の資料を用いて明らかにした。現在も茅場が継承されており、また地区の共有財産として大切に維持されてきた。後山地区自治会資料を収集、分析した。

(5) 屋根葺き職人の使用する屋根鈿の製作工程を映像記録するとともに、形態上の特徴を抽出した。広島県安芸高田市の横田鉄工所において屋根鈿製作工程をビデオ映像記録した。この地域は安芸の屋根屋、芸州屋根屋と呼ばれた出張仕事の職人を多く輩出した地域である。横田鉄工所は職人の注文に応じて屋根鈿を長年制作してきた。かつては注文に応じて出張先の滞在場所へ送ることもしていた。形態上からは刃先と柄の角度、二つの柄の開き具合に身度尺が用いられ、正確な寸法取りが行われた。

(6) これらの成果をまとめた報告書(5頁 200部)を作成した。地元への成果還元を目的としたものである。具体的な職人への聞き取り調査の内容、実測データを盛り込んだものとし、調査関係者及び関係区市町村へ配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 坪郷英彦、中国地域の草屋根葺きの技術文化—広島・島根の事例を中心にして—、民俗建築、査読無、2010、17-21
- ② 坪郷英彦、草葺き屋根の形と風土—岡山県・鳥取県の草屋根葺き職人の技術文化を中心にして—、やまぐち学の構築、査読無、第6号、2010、1-23

[学会発表] (計2件)

- ① 坪郷英彦、中国地域の草屋根葺きの技術文化—広島・島根の事例を中心にして—、日本民俗建築学会平成21年度36回大会、2009年5月23日、つくばカピオホール
- ② 坪郷英彦、草葺き屋根職人から何を学ぶか、2008年度道具学会研究発表フォーラム、2009年1月11日、おもちゃ博物館

[図書] (計2件)

- ① 坪郷英彦他、柏出版、日本の生活環境文化大事典、2010、5月刊行予定
- ② 坪郷英彦他、山口県、山口県史民俗編、2010、209-314

[産業財産権]

- 出願状況 (計0件)
- 取得状況 (計0件)

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坪郷 英彦 (TSUBOGOU HIDEHIKO)
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：70207439

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし